

4-4

演題	認知症対応強化ユニットの効果的運営
副題	

認知症ケア

法人名	社会福祉法人 蓬莱会
施設名	ケアプラザさがみはら

発表者名 (職種)	伊藤 茂 介護職員
共同発表者	天谷 和成
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	相模原市緑区大島 295
TEL	042-713-3818
FAX	042-713-3827
メールアドレス	careplaza-sagamihara@vesta.ocn.ne.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	平成 24 年 6 月開設。定員 140 名（入所 130 名、短期入所 10 名）のユニット型特養。理念である「敬愛」「奉仕」「協和」の精神のもと、ご利用者様の尊厳と人権を守り、ご本人の望む暮らしの獲得を目指しています。
---------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

研究の目的、PR ポイント

認知症による心理・行動症状 (BPSD) により、ユニットでの共同生活を送ることが困難な入居者様に対して、認知症対応に特化したユニットを設立し、日々を穏やかに生活できる環境を整備することを目標に取り組んだ。

取り組んだ課題

今までは各ユニットに認知症の心理・行動症状 (BPSD) により共同生活を送ることが難しく、入居者様同士でストレスを感じ、介護スタッフもその対応に悩んでしまうことがあった。そのため試験的に「認知症対応強化ユニット」を新たに設置、入居者が穏やかな生活を送ることが出来る環境を重点的に整備する取り組みを開始した。

具体的な取り組み

- 取り組みの手順
- ① 運用の開始【令和 3 年 1 月～】
 - ・ 職員配置の変更と入居者様の移動を開始。ユニット移動による入居者様への負担を最小限にするため、移動日程の調整を行った。また、ケアの方針として、職員の意識改革をする為に「認知症対応強化ユニット」の設置目的を職員一人一人に面談を行い、説明した。
- ② 通常は月に 1 回のレクリエーションだったが、月ごとに担当を決めて心理・行動症状 (BPSD) の軽減のために、毎日大小さまざまなレクリエーションを習慣化した。
- ③ 継続的な評価と修正の実施
 - ・ 介護スタッフをはじめ他部署職員も参加する会議を毎月実施し、「認知症対応強化ユニット」の運用上の課題の確認と対応を行った。
- ④ 入居者様の意向を尊重した対応を取ることとした。一例として歩いてしまわれることでの他入居者様とのトラブル回避の為、行動制限をしていた方が「認知症対応強化ユニット」に来たことで行動制限をすることなく過ごせるようになった。

活動の成果と評価

- 1、運用前と比較して暴力・大声・不安など心理・行動症状 (BPSD) の軽減がほぼすべての入居者様に認められた。ご家族様より、「以前の施設では表情も暗く活気もなかったのに、今日会ったらすごく元気で表情も明るく、いろいろと話してくれた」と喜んでいただくことができた。
- 2、「認知症対応強化ユニット」以外のユニットでも、落ち着いてケアが出来るようになった。
- 3、「認知症対応強化ユニット」で対応、状態が安定してから別のユニットに移動していただくことで、新規入居や状態の急激な変化にも柔軟に対応することができるようになった。入居検討においても認知症対応に特化したユニットを設置したことで受け入れの幅が広がり、今までは受け入れ困難とされるような待機者も 8 名受け入れることができた。
- 4、「認知症対応強化ユニット」運用開始前は、対応困難による精神科病院への入院ケースが平均 2 件 / 年あったが運用開始後は 0 件となり、入院治療に頼らず施設のケアで対応できるようになった。
- 5、毎月のレクリエーションの習慣化により、不安症状が出た方に対して自然と気持ちの切り替えを促すことができるようになった。

今後の課題

認知症対応強化ユニットにおいては職員の意識改革を図ることができたが、施設全体にまでは至っていないため、今後は施設全体に同様の考え方を広げていく必要がある。またこれまでは専門的な知識の習得についての取り組みが不足していたため、現在は介護部門のリーダークラスやケア強化ユニットの配属職員を中心に、認知症ケアに関わる外部研修に積極的に参加し、より多くの職員が個々のスキルアップを図る必要がある。